

第1章

授業参画プロジェクトの実施経過について

I. 平成13年度教育計画室活動事業

平成13年度当初に、腰塚武志教育担当副学長から、教育計画室の活動事業に関して以下のような4点の検討事項をいただくことになった。

- (1) 研究授業や授業参観などによる具体的なFDの実施
- (2) 学生による授業評価の全学的な実施案の策定
- (3) 多様なメディアを利用した新しい授業形態の在り方
- (4) 学期制の在り方についての検討

これらのうち(4)の学期制については、およそ夏頃までに検討作業を終えてもらいたいこと、また上記に関連して外国語教育の在り方についても含めてもらいたい旨の要請があった。

以上のことを踏まえながら、教育計画室会議において室長から本年度の活動事業の目標及び具体的作業を次のように設定することが提案された。

本年度の活動目標：研究大学の特性を生かした学群・学類教育の創造的再生
— 単調ではなく多様を、分裂ではなく統合を —

本年度の重点的活動事業：

【1】学群・学類授業参画プロジェクトの実施

現在、国立大学のFD事業は、急速に「啓蒙的な伝達講習型」から「協働的な相互研修型」へ移行しつつある。最も大規模にかつ組織的に取り組んでいる京都大学高等教育教授システム開発センターでは、毎週実施する公開実験授業、毎月実施する公開研究会、毎年実施する大学教育改革フォーラムの3つの事業を展開しているが、昨年度から新たに「授業参観プロジェクト」を立ち上げ、相互研修ネットワークづくりをめざしている。

大学教員の研修は「相互」研修であることを尊重するならば、上記の公開実験授業や授業参観プロジェクトのようなボトムアップ式のFD組織化を指向すべきであろう。

このような観点に立ち、知力と資源の多くの富を有する研究大学の特性を生かして、新たに「学群・学類授業参画プロジェクト」を本年度より実施することは意義が大きいと思われる。

【2】学群・学類授業評価・教育評価システム(LTES)の導入案の策定

大学は学習者の共同体である。研究大学においては、大学教員と学生が学習者であり、研究者でもある。両者の相互作用は、健全で活気あふれる知的雰囲気醸し出す。研究大学においては、教員であれ学生であれ、すべての成員の役割について、知的探求と創造性を涵養するようなキャンパス環境の下で学習-教育が行われるバランスのとれた共同作用システムをその制度的目標とすべきである。

このような視点から、本学の学群・学類教育における共同作用的評価システム(Learning and Teaching Evaluation System)を導入し、学生による教員の授業評価とともに、教員による学生の成績評価の双方における新たなシステム開発を行う。

【3】学期制の検討（緊急課題）

本学の3学期制については、すでに2学期制への移行を視野に入れた見直し論議が盛んに行われてきた。別紙1（参考：省略）にみるように、わが国の新制大学及び単位制度は、セメスター制を前提として成立しており、セメスター単位の下で2学期制か3学期制かが議論されているという特異な状況にある。現行の設置基準の下では、アメリカ全体で3割近く採用されているクォーター単位や東部有名大学で近年みられるようなコース単位、さらにはMITあるいはCal Techのような学生の自学自習をも単位に算入する方式などは導入不可能である。

また、わが国の大学では、平成3年以降の基準の大綱化以降、2学期制の授業完結型であるセメスター制への移行が顕著であり、すでに7割以上の大学が導入してきている。

アメリカの場合もそうであるが、学期制の変更は何らかの外的要因がなければなかなかできないものである。本学の場合、図情大との統合という要因の中で変更する絶好のチャンスでもある。

教育計画室では、変更しないというオプションも含めてセメスター制実現のための実質的な作業を早急に進めていきたい。その際、敢えて別紙2（省略）のような2学期制・3学期制の併用プランについても検討してみる。

以上の諸提案について討議した結果、【1】のプロジェクトを立ち上げることに併せて【3】についても関係資料や外国語センターへの聞き取り調査を実施することなどが合意されることになった。

Ⅱ. 学群・学類授業参画プロジェクトの実施計画

平成13年度の教育計画室の重点活動事業として立ち上げるようになった「学群・学類授業参画プロジェクト」実施計画は、次のように策定された。

（趣旨）

現在、国立大学のFD事業は、急速に「啓蒙的な伝達講習型」から「協働的な相互研修型」へ移行しつつある。大学教員の研修は「相互」研修であることを尊重するならば、今後は相互研修ネットワークづくりをめざす公開実験授業や授業参観のようなボトムアップ式のFD組織化を指向すべきであると考えられる。

このような観点に立ち、知力と資源の多くの富を有する研究大学の特性を生かして、新たに「学群・学類授業参画プロジェクト」を本年度より立ち上げ、教育計画室としての教育活動改善に対する支援を行う。

（目的）

研究大学の特性を生かした学群・学類教育の創造的再生をめざし、相互研修としてのピアレビューを可能にする契機とする。

（実施計画）

1. 対象・時期

原則として、学群・学類1・2年次開設科目で受講生おおむね50人以上の授業（講義・実技等）。時期は、おおむね2学期（9月～12月）の授業とする。

2. 授業参観の依頼

教育計画室室員及び専門学群長・学類長の推薦等により、授業参観を受諾してくれる教官を募る(20名前後)。

3. 授業参観者

教育計画室室員・専門委員(7名)、教育担当副学長、その他

4. 記録・報告

授業終了後、参観者による授業参観記録の作成(様式1)及び学生の授業感想の集計(様式2)を行う。

5. フィードバック

授業者へ参観記録報告及び「証明書」(様式3)を送付するとともに、年度内にメーリングリストと報告書を作成する。

6. 相互研修会

年度の終りに授業者・参観者による相互研修会を実施する。

<様式1>

授業参観記録

参観者()

1. 参観授業名: () 単位) 授業科目区分:
2. 担当教官名: (所属) 学系(連絡先)
3. 受講学生数:
4. 教室名:
5. 実施日:平成13年 月 日()第 時限
6. 参観記録・ポイント
 - (1) 授業者について
 - ①授業の構成・展開
 - ②教授技術面(話し方、教具、教材、機器等)
 - ③際立った点
 - ④疑問点

(2) 学生について

①学生の興味・関心度あるいは集中度

②学生の授業参加度

(3) その他

7. 授業の全体的な感想

<様式2>

学生の授業感想アンケート

学生氏名 ()

*このアンケートは、本授業の評価を目的とするものではなく、教員の相互研修に役立てるために参考とするものです。集計等においてもいっさい個人名は公表しませんので、安心して自由に書いていただきたいと思います。

1. 本日の授業について、分かりやすさ、興味、有益さ、理解度、期待度の観点から自由に意見を述べて下さい。

2. 本日の授業を含めて、この授業についての感想を自由に書いて下さい。

(1) 授業でよかったと思う点を挙げて下さい。

(2) 今後改善した方がよいと思われる点がありましたら挙げて下さい。

*ご協力ありがとうございました (本学教育計画室)。

(様式3)

筑波大学FD研修参加証明書

殿

あなたは、筑波大学教育計画室が主催した下記のFD研修に参加したことを証明します。

研 修 名：学群・学類授業参画プロジェクト

主 催 者：筑波大学教育計画室

参観授業名：

授業実施日：

平成 年 月 日

筑波大学教育計画室長 清水一彦 印

筑波大学副学長 腰塚武志 印

以上の流れを図式化すると、次のようになる。

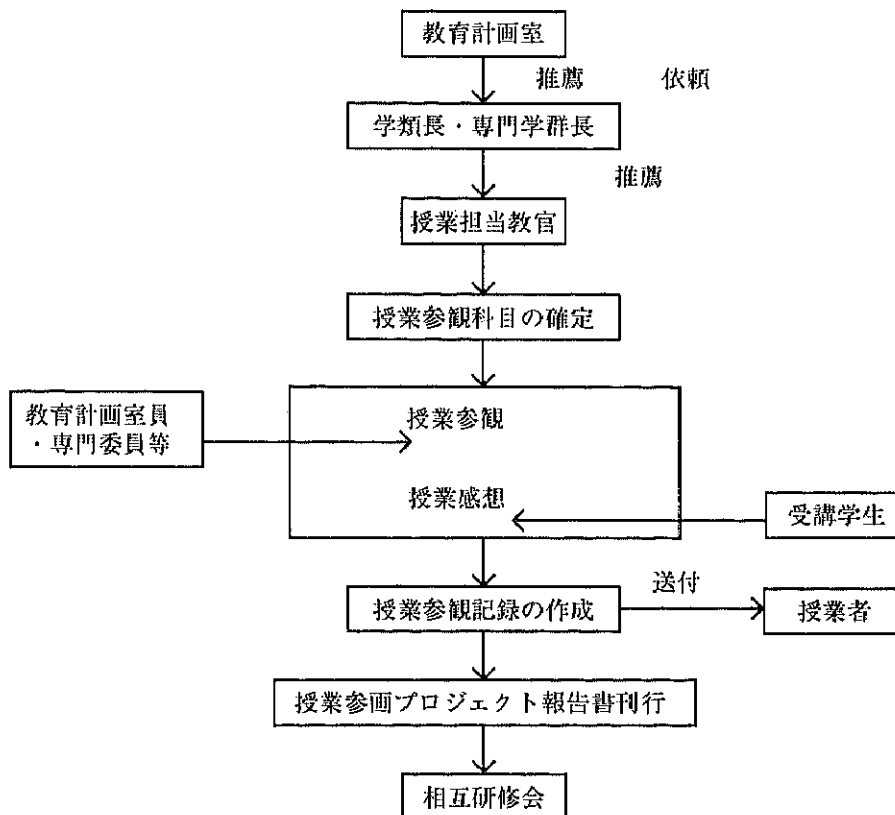


図1 授業参画プロジェクトの流れ

Ⅲ. 学群・学類授業参画プロジェクトの実施

このプロジェクトは、教育審議会の上承を得て実施準備が行われることになった。参観授業については、腰塚副学長をはじめ教育計画室員等の推薦、向嶋第二学群長からの推薦などによって20の授業及び教官がリストアップされ、7月に依頼文書によって内諾を得ることになった。

その結果、15人から快諾があり、そのうち3人については前期の授業のため次年度以降とし、12人について本年度中に実施することが決定した。同時に、それぞれの授業の参観責任者を分担することになった。こうして、表1のように、本年度のプロジェクトが実施されることになった。

表1 平成13年度学群・学類授業参画プロジェクト実施表

実施日	曜日・時限	科目名	教官名(所属)	教育計画室 担当責任者
10月 10日	水・2	電磁気学Ⅰ	工藤 博(物工)	上殿明良
17日	水・1	動物分類学概論	牧岡俊樹(生物)	小川俊樹
11月 7日	水・3	道德教育	福田 弘(教育)	高田 彰
8日	木・2	授業づくり演習	谷川彰英(教育)	吉江森男
9日	金・5	造形論B	蓮見 孝(芸術)	清水一彦
15日	木・3	対人社会心理学	松井 豊(心理)	吉江森男
12月 3日	月・2	臨床人間学	庄司進一(臨医) 紙屋克子(社医)	清水一彦
3日	月・5	電磁気学Ⅱ	植 寛素(質工)	上殿明良
4日	火・3	日本語・日本文化基礎論Ⅲ	千本秀樹(歴人)	真田 久
14日	金・2	情報科学Ⅱ	福井幸男(電情)	木村 浩
15日	土・集中	学際研究Ⅱ	宮本陽一郎(文言)	真田 久
1月 8日	火・1・2	線形代数Ⅲ	坪井孝司(機工)	上殿明良

Ⅳ. プロジェクト関連の研究会・相互研修会の実施

学群・学類授業参画プロジェクトは、当初の計画通りすべて実施された。このプロジェクトと並行して、11月には関連する研究会が開催され、またプロジェクト終了後の3月には参観授業に協力をいただいた先生方を交えた相互研修会が開催された。

それぞれの趣旨・日程は、次のようなものであった。

【A：研究会】

1. 研究会テーマ 「学生参画型授業 ―理論と実践―」

2. 趣旨

教育計画室が刊行した昨年の報告書『FDハンドブック』では、問題解決型あるいは学生参加型の実践事例が紹介され、多面的な評価方法を取り入れたユニークな実践が多く、教育上の効果も大きいことが明らかになりました。と同時に、こうした授業実践においては、関係機関や教育組織等の理解と支援が必要不可欠であることが指摘されました。

また、教育計画室では、本年度からFDの実行化をめざした「学群・学類授業参画プロジェクト」を立ち上げ、2学期より室員を中心に実際の授業を参観しながら相互研修の機会を拡大していくことになりました。

こうした状況を踏まえ、とくに授業参画プロジェクトの理論的意義を理解するための大学の授業論や学生参画理論について学習する研究会を開催することにしました。

3. 開催日時

11月7日（水）午前10時～11時30分

4. 場所

本部棟8階会議室（ゲストルーム）

5. 講師

武蔵大学人文学部教授 林 義樹

1946年生まれ。広島大学大学院教育学研究科修了、この間、ソニーやYMCAにも勤務。九州学院大学（現在の第一工業大学）、中村学園大学を歴任して現職。

独自の「参画理論」「ラベルワーク」を構築し、さまざまなフィールドで「参画型ラベルワークショップ」を開催し、実践的に研究開発中。参画文化研究会の代表者。

『学生参画授業論 ―人間らしい「学びの場づくり」の理論と方法―』（学文社、1994）

6. 参加者

教育計画室室員、本学教職員

【B：研修会】

1. 研修会テーマ 「授業参観を終えて」

2. 講演題目 「授業参観とFDの制度化」

講師：石村雅雄（鳴門教育大学学校教育学部助教授、京都大学高等教育教授システム開発センター助教授（併任））

3. 趣旨

教育計画室では、本年度からFDの実行化をめざした「学群・学類授業参画プロジェクト」を重点活動事業として立ち上げ、本年度2学期より室員を中心に合計12の授業を参観してきました。参観授業は、文系から理系さらには芸術や医学まで多岐にわたり、また授業形態も講義、演習あるいは両者併用など多様であり、クラス規模も20～30人から380人までと広範囲なものでした。すでに、室員を中心にそれぞれの授業参観記録を作成中であり、学生へのアンケート結果の集計も進められています。

本プロジェクトのねらいは、教員相互の研修の機会を拡大していくことに置かれています。ご協力いただいた先生方とともに授業参観についての意見交換を行うとともに、他大学において同様のプロジェクトを実践してきた外部講師による講演を交えながら、教授法改善や授業創造を図っていくための研修会を開催し、次回以降の授業参画プロジェクトの実践に役立てたいと考えています。

4. 開催日時

3月7日（木）午前10時～12時

5. 場所

本部棟5階大会議室

6. 日程

- 10:00～10:05 腰塚副学長挨拶
- 10:05～10:15 プロジェクトの実施経過報告（教育計画室）
- 10:15～10:45 「授業参観を終えて」意見交換
- 10:45～11:45 講演「授業参観とFDの制度化」（石村雅雄）
- 11:45～12:00 質疑応答・まとめ

7. 参加者

教育計画室室員、参観授業担当教官、その他本学教職員

（教育計画室長 清水一彦）